

全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。

主日の福音 2022/12/25(No.1214)



## 主の降誕（日中）（ヨハネ 1:1-18）

御子の受肉はすべてを意味あるものとしてくださった

「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。」（1・14）先日、この箇所を黙想する機会を得ました。神様はなぜ、人となって、わたしたちの間に宿られたのでしょうか。全能の神様が、何か計画を果たすのに、人とならなければその無限の力を発揮できない場面があるのでしょうか。常識的に考えればそんな必要はどこにもありません。

しかし御父は、御自分の御子が人となってこの世界にお生まれになることを望まれました。神はあえて、生まれる体験と死ぬ体験をするために、人となられました。なぜでしょうか。それはひとえに、人間のためでした。すべての生きとし生けるものを救うため、すべての死にゆくものを救うため、マリアを通して人となってくださったのです。

神が人となってくださったので、私たち人間は神と関わりを持つものとなりました。神が人となって生まれてくださったので、生まれてきたすべての人が関わりを持ったのです。神は「全知全能永遠で限りなく尊く、また慈愛深いお方」です。もし神が人となってくださらなかったら、私たちの弱く不完全な特徴と、すべてに完全な神と、どこに共通点があったのでしょうか。

神が、か弱さを身に受けてくださったことで、すべての生まれてきた人が繋がりを持つことになりました。寒さにこごえている幼子イエスのおかげで、全世界で寒さにこごえている人が繋がりを持つことになりました。家畜小屋の飼い葉桶に寝かされていることで、家を追われ、肌を覆う物も満足に持たない人が繋がりを持つことになりました。

神がか弱さを身に受けてくださったことがどんなに意味深いことか、数え上げればきりがありません。生まれたことすらほとんど気づかれなかったおかげで、誰にも気にかけてもらえない人、生きる意味を見失っている人が繋がりを持つことになりました。

神の独り子が私たちと繋がっているのは誕生だけにとどまりません。与えられた朗読には「言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった」（1・11）とあります。誠実に生きても受け入れてもらえない人が、この世界にいるかも知れない。神が人となられたことで、このような人とも繋がりを持つてくださったのです。

私たちはどうでしょうか。馬小屋に足を運び、考える必要があります。私たちが、人となってくださった神の独り子とは、どのような共通点・繋がりがあるのでしょうか。「私は今、豊かである。満腹している。笑っている。すべての人からほめられている。だから馬小屋のイエス・キリストと共通点がない。」もしそうであれば、それは最大の不幸と言うべきでしょう。

か弱い姿でお生まれになったイエス。この方を受け入れましょう。受け入れるなら、私たちが弱さや限界を感じる時、同じ姿を身に受けてくださったあなたを思い出すことができます。イエスのおかげで、私たちのどんな過酷な環境も、生きる価値がある場所となりました。ミサの終わりには、ぜひ馬小屋でしばらく祈り、感謝して帰ってください。またささやかですが、クリスマスプレゼントももらって行ってください。

神の母聖マリア(ルカ 2:16-21)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。